

令和2年度第2四半期までの運用状況等

(令和2年4月～令和2年9月)

独立行政法人農業者年金基金は、年金資産の安全かつ効率的な運用を行っています。令和2年度第2四半期における運用状況を「独立行政法人農業者年金基金中期計画」に基づき公表いたします。

当基金が行っています年金資産の運用においては、確定拠出型の年金制度であることから、原則、資産を時価で評価しなければならないため、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、短期的には、運用成績が変動しマイナスになることがあります。長期的な運用により安定した運用収益を上げることが期待されます。

今後とも、安全かつ効率的な運用を徹底して参りたいと思いますので、皆様の御理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【参考】

独立行政法人農業者年金基金中期計画（平成30年3月27日認可）－抜粋－

2 年金資産の安全かつ効率的な運用

(4) 運用の透明性の確保

年金資産の構成割合、運用成績等については、四半期ごとにホームページで情報を公表するとともに、加入者に対して、毎年6月末日までにその前年度末現在で評価した個々の加入者に係る運用結果を通知する。

目 次

	頁
1. 令和2年度第2四半期まで（令和2年4月～令和2年9月）の運用環境について	1
2. 令和2年度第2四半期まで（令和2年4月～令和2年9月）のポートフォリオ別の運用状況	2
3. ベンチマーク・インデックスの推移	4
（参考）用語の説明	5

1. 令和2年度第2四半期まで（令和2年4月～令和2年9月）の運用環境について

（第1四半期）

新型コロナウイルスの感染が再拡大したことでリスク回避姿勢が高まる場面も見られましたが、世界経済の回復期待の高まりを背景に、株式においては株価上昇圧力が働く環境にありました。一方、債券においてはもみ合いで推移しました。

なお、為替については、新型コロナウイルスの第2波懸念から円高となる場面も見られましたが、リスク選好の動き等から円安が進行しました。

（7月）

前半は米中の経済指標の改善や米国の新型コロナウイルスのワクチン開発への期待等を背景に、株価の上昇が進みました。月末にかけては、国内外での新型コロナウイルス感染拡大や米中対立激化への懸念などから、債券においては金利低下（価格上昇）圧力が、株式においては株価下落圧力が働く環境にありました。

なお、為替については、米中対立の激化懸念等によるリスク回避の動き等から対ドルで円高が進行しました。

（8月）

月半ばにかけて、米国の景気指標改善や新型コロナウイルスのワクチン開発進展期待等から、ハイテク株が牽引する形での株価の上昇や、金利の上昇（債券価格は下落）が進みました。月央以降も、国内景気の先行き不透明感や米中対立の激化が警戒される一方で、新型コロナウイルスの治療法やワクチン開発への期待、米国の低金利政策の長期化期待等を背景に、株式においては株価上昇圧力が、債券においては金利上昇（価格下落）圧力が働く環境にありました。

なお、為替については、米国の経済指標改善を背景とした長期金利上昇等により、円安が進行しました。

（9月）

前半は、米国において主力ハイテク株を中心に利益確定目的の売りが広がり、株価の下落や、金利の低下（債券価格は上昇）が進みました。その後、国内では菅新政権のもとでの政策継続への安心感やデジタル化推進等への期待から株価は上昇しました。月央以降は、米国で主力ハイテク株の調整が続く中、欧州における新型コロナウイルス感染再拡大への懸念や、米国の追加経済対策法案の成立遅れ等を背景に、株式においては株価下落圧力が、債券においては金利低下（価格上昇）圧力が働く環境にありました。

なお、為替については、ドルに対し、FRBによるゼロ金利政策が長期化するとの見方が強まり、円高が進行しました。

2. 令和2年度第2四半期まで(令和2年4月～令和2年9月)のポートフォリオ別の運用状況

① 被保険者ポートフォリオ

令和2年度第2四半期まで(令和2年4月～令和2年9月)の被保険者及び期待者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、令和2年9月末時価総額は2,435億42百万円となり、第2四半期までの総合収益は114億40百万円となりました。また、修正総合利回りは4.92%となりました。

(単位:百万円、%)

資 産	令和元年度末 時価総額	令和2年9月末 時価総額	時価総額構成割合	第2四半期まで の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	166,845	167,305	68.7	-0	-0.00
自家運用	67,968	68,636	28.2	178	0.26
外部運用	98,877	98,669	40.5	-178	-0.18
国内株式	26,471	30,548	12.5	4,459	16.83
外国債券	13,085	13,300	5.5	214	1.64
外国株式	25,071	31,836	13.1	6,767	27.01
短期資産	590	553	0.2	-0	—
合 計	232,062	243,542	100.0	11,440	4.92

- (注) 1. 政策アセットミックスは、国内債券71% (±10%)、国内株式12% (±4%)、外国債券5% (±2%)、外国株式12% (±4%) としています (カッコ内は乖離許容幅)。
 2. 国内債券のうち自家運用 (満期保有目的) については、償却原価法 (定額法) を適用しています。
 3. 国内債券のうち外部運用については、金利上昇リスクに対応するために保有する短期資産 (令和元年度末時価総額47,601百万円、令和2年9月末時価総額47,155百万円) を含みます。
 4. 令和元年度末時価総額は、令和元年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の590百万円は、決算整理前の額588百万円に被保険者危険準備金ポートフォリオからの受入額2百万円を加算した額です。
 5. 令和2年9月末時価総額 (合計) は、令和元年度末時価総額 (合計) 232,062百万円に、第2四半期までの追加投資額等40百万円及び総合収益の11,440百万円を加算した額243,542百万円となりました。
 6. 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。(以下同じ。)

(参考) 令和2年度第2四半期(令和2年7月～9月)の運用状況

(単位:百万円、%)

資 産	令和2年6月末 時価総額	令和2年9月末 時価総額	時価総額構成割合	第2四半期 の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	166,875	167,305	68.7	320	0.19
自家運用	68,523	68,636	28.2	89	0.13
外部運用	98,353	98,669	40.5	231	0.23
国内株式	29,103	30,548	12.5	1,511	5.19
外国債券	13,210	13,300	5.5	90	0.69
外国株式	30,094	31,836	13.1	1,745	5.79
短期資産	453	553	0.2	-0	—
合 計	239,735	243,542	100.0	3,666	1.53

- (注) 令和2年9月末時価総額 (合計) は、令和2年6月末時価総額 (合計) 239,735百万円に、第2四半期の追加投資額等140百万円及び総合収益の3,666百万円を加算した額243,542百万円となりました。

② 受給権者ポートフォリオ

令和2年度第2四半期まで(令和2年4月～令和2年9月)の受給権者に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

なお、債務の評価額である受給権者経理における給付原準備金の額は、毎年度末の額について、年金数理人の有資格者である年金計理人が、関係規定に基づき適正に算定されていることを確認しており、令和元年度末においては90,947百万円となっています。

(単位:百万円)

資 産	令和元年度末 時価総額	令和2年9月末 時価総額
国内債券	75,625	75,960
短期資産	16,506	19,460
合 計	92,131	95,420

(注) 1. 令和元年度末時価総額は、令和元年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の16,506百万円は、決算整理前の額16,163百万円に、受給権者危険準備金ポートフォリオからの受入額343百万円を加算した額です。

2. 令和2年9月末時価総額の短期資産のうち16,429百万円は、マイナス利回りの国内債券購入を回避するため、追投待機資産として現預金等により取り置いているものです。

③ 被保険者危険準備金ポートフォリオ及び受給権者危険準備金ポートフォリオ

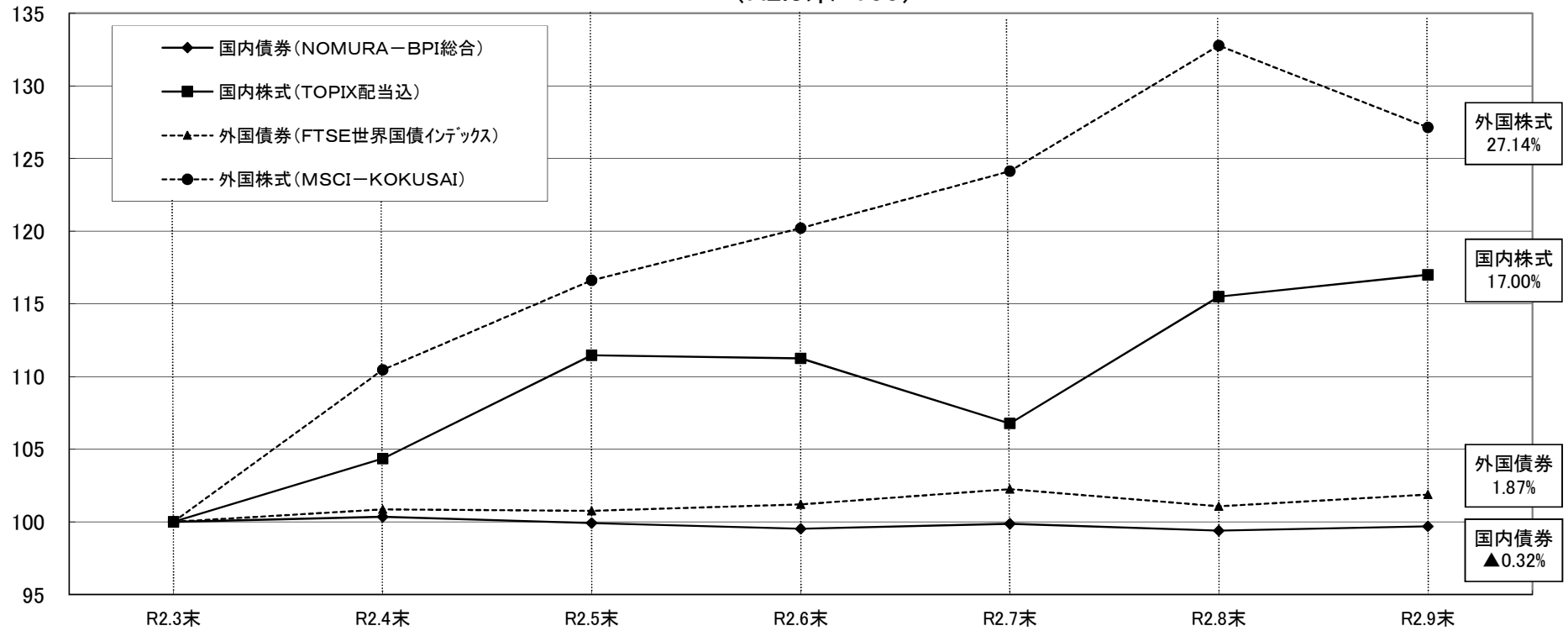
令和2年度第2四半期(令和2年4月～令和2年9月)の危険準備金に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:百万円)

ポートフォリオ	区 分	資 産	令和元年度末 時価総額	令和2年9月末 時価総額
被保険者危険準備金 ポートフォリオ	付利準備金	短期資産	7,113	7,114
	調整準備金	短期資産	2,801	2,736
	合 計		9,914	9,850
受給権者危険準備金 ポートフォリオ	調整準備金	短期資産	2,631	2,802

(注) 令和元年度末時価総額は、令和元年度決算整理後の額となっています。なお、被保険者危険準備金ポートフォリオの短期資産の合計9,914百万円は、決算整理前の合計額9,916百万円から被保険者ポートフォリオへの繰入額2百万円を減算した額です。また、受給権者危険準備金ポートフォリオの短期資産の2,631百万円は、決算整理前の額2,974百万円から受給権者ポートフォリオへの繰入額343百万円を減算した額です。

3. ベンチマーク・インデックスの推移 (R2.3末=100)



(参考)市場インデックス

区 分	令和2年3月末	令和2年6月末	令和2年7月末	令和2年8月末	令和2年9月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	0.010 %	0.025 %	0.010 %	0.045 %	0.010 %
(NOMURA-BPI総合)	388.450 ポイント	386.558 ポイント	387.913 ポイント	386.087 ポイント	387.219 ポイント
国内株式 (日経225)	18,917.01 円	22,288.14 円	21,710.00 円	23,139.76 円	23,185.12 円
(TOPIX配当込)	2,167.60 ポイント	2,411.45 ポイント	2,314.39 ポイント	2,503.59 ポイント	2,536.14 ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	0.670 %	0.657 %	0.529 %	0.706 %	0.685 %
(独10年国債利回り)	-0.471 %	-0.454 %	-0.524 %	-0.397 %	-0.522 %
(FTSE世界国債インデックス)	421.441 ポイント	426.468 ポイント	430.914 ポイント	425.970 ポイント	429.330 ポイント
外国株式 (NYダウ)	21,917.16 ドル	25,812.88 ドル	26,428.32 ドル	28,430.05 ドル	27,781.70 ドル
(独DAX指数)	9,935.84 ポイント	12,310.93 ポイント	12,313.36 ポイント	12,945.38 ポイント	12,760.73 ポイント
(MSCI-KOKUSAI)	2,806.635 ポイント	3,373.647 ポイント	3,483.850 ポイント	3,726.561 ポイント	3,568.283 ポイント
為替レート (対ドル)	107.96 円	107.89 円	105.73 円	106.05 円	105.53 円
(対ユーロ)	118.45 円	121.17 円	125.03 円	126.82 円	123.75 円

用語の説明

○ ポートフォリオ

資産を運用する際の保有資産の組合せのこと。また、組み合わされた運用資産全体を指すこともある(同義語 ファンド)。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を、運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産の収益率を評価する基準となる指標のこと。

以下は、被保険者ポートフォリオにおけるそれぞれの資産のベンチマーク・インデックスとして、当基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付円建債(A格相当以上)から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が作成している国内株式市場の指標。東証一部全上場銘柄から構成される。国内株式市場の代表的な指標である。

* FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジあり、円ベース)

FTSE Fixed Income LLCが作成している外国債券市場の指標。主要各国(除く日本)が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

* MSCI-KOKUSAI(源泉税控除前、配当再投資、円換算)

MSCI Inc.が作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。